

『交流活動を通して学校や地域においてたくましく生きる児童の育成』

あま市立甚目寺西小学校

1 目的

校訓「明るく やりぬく たくましい子」のもと、豊かな心で人と関わり、互いを尊重し合うことのできる児童の育成をめざし、人と人との「交流」に重点を置いた教育活動を推進します。

2 内容

(1) 多様な交流（児童・地域・国際）の場を通して温かい人間関係づくり

ア わくわく活動（にこにこ給食・読み聞かせ交流）

本校では、長年にわたって、「わくわく活動」と名付けた異学年交流活動（縦割り班活動）に力を注いでおり、ふれあいゲームを楽しんだり、いっしょに給食を食べたりしています。新たに朝の読書タイムの時間に、「読み聞かせ」交流を行いました。活動後の6年生のふり返りカードには、皆に喜んでもらえたという達成感とともに、月に一度、読み聞かせに来て下さる図書ボランティアのお母さんたちの思いを推し量り、感謝の気持ちを新たにした記述もありました。自分たちを支えてくれている人の存在に気づき、その人たちの願いや思いを受け止められる子がさらに増えていくことを願っています。



－ 優しく『読み聞かせ』をする6年生 －

イ 甚目寺・和（なごみ）集会

郷土に伝わる伝統芸能にふれるとともに、地域の方々との温かいふれあいを大切にする場として、『甚目寺小唄』を運動会のプログラムに「ふれあい種目」として組み入れました。甚目寺地区民踊クラブの方々の指導を受けながら練習に取り組む中で、歓迎会を開くことにし、児童会役員を中心に計画・運営を進めました。『和（なごみ）』集会と名付けられた歓迎会の名前には、リーダー・サブリーダーの地元への愛着を深めたいという願いが込められています。子どもたちは、招待する方々の目線に立って準備を進め、手作りの扇子と心の籠もった全校合唱を贈りました。

ウ スリーハート運動

本校では、毎年、規範意識の高揚と人権モラル向上をめざした「スリーハート運動」に取り組んでいます。これは児童と保護者、地域の方々が知恵を絞った標語の中から、優秀作品を選び、1枚のポスターにまとめたものを、学区の40箇所の公共施設や商業施設等へ掲示する活動です。出来上がったポスター

は、5，6年生の児童が，地域の公共施設や民間の商業施設へ出向き，掲示してもらいました。

エ マロニー小学校との交流

引き続き、アメリカ・マロニー小学校との交流活動を進めています。今年度は、ハロウィンや七夕など、それぞれの国の特有の文化を紹介し合えるよう、工夫をした作品交換をしています。Skype を利用したテレビ電話によるふれあいは、昨年度以上に笑顔があふれ、たのしいひとときでした。

(2) 挑戦する土台づくり

ア 阿波木偶箱廻し

徳島県で、古くから“人と人とのつながり”によって守られてきた伝統文化にふれる機会をもちました。伝統を守り続けてみえる保存会の皆さんの願いや思いを聞くことで、子どもたちは，“人”として大切にしていけるべきことを感じ取ってくれたようでした。



－ 阿波木偶箱廻し公演 －

イ 外部講師の招聘

外部から講師を招き，温かいふれあいを大切にした学習活動を進めるとともに，私たち教師の力量向上にもつなげています。

- * 地元老人クラブ（伝承遊び：1年）
- * 佐藤醤油（醤油造り：3年）
- * カルビー食品（おやつと健康：3年と6年）
- * ドリームマップ普及協会（将来の夢：4年）
- * 中日新聞地元営業所（新聞づくり：5年）

ウ 現職教育の充実

合唱指導や学習発表会での演技指導，QU検査の分析について，専門講師を招いて研修を深め，教師の力量向上を図りました。

3 評価

多くの方々との温かい出会いとふれあいを大切にした活動を計画的に積み重ねてきた中で，互いを尊重し合う児童が着実に育ってきています。

4 課題

多様な取組を通して，子どもたちは，互いを気遣い，相手の目線に立つてものごとを考えることができるようになってきました。こうした姿を一時的なものに終わらせず，継続した力，つまり実践力へとつなげていくため，あらゆる場面において，繰り返し，子どもたちに働きかけていきたいと考えています。